

第64回全日本特別支援教育研究連盟全国大会北海道大会
大会アピール（北海道大会）

2025年10月23日(木)

2025年6月に厚生労働省が発表した人口動態調査によれば、2024年の我が国の出生数ははじめて70万人を割る状況となった。一方で、特別支援学校等の特別支援教育の場で学ぶ子供は増加を続けており、特別支援教育が果たす役割はますます重要性を増しているといえることができる。

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」（2024年12月中央教育審議会）においても、「インクルーシブ教育システムの充実に向け、合理的配慮の提供を含め、障害のある子供たち一人一人の教育的ニーズに応じた、質の高い特別支援教育の在り方をどのように考えるか。その際、特別支援学級や通級による指導に係る特別の教育課程の質の向上、自立活動の充実や小中高等学校に準じた特別支援学校での改善方策をどのように考えるか。」とされ、国内外のインクルーシブ教育への機運の高まりを踏まえつつ、我が国の実績を踏まえた特別支援教育の充実が期待される。

このような状況の下で、本大会では主題を「特別な配慮を必要とする子供たちがその可能性を最大限に伸ばすための指導・支援及び、将来の自立と社会参加に必要な力を育成するための適切な指導・支援を目指して」として、子供一人ひとりの可能性の伸長、そして自立と社会参加を図る、実践現場での指導・支援のありようを課題としている。

全日本特別支援教育研究連盟では、これらの状況と本大会での成果を踏まえ、全特連ビジョン（2022年5月20日改定）の6項目に即して、今後1年間にわたる活動の重点として、以下の通り、大会アピール（北海道大会）を策定する。

1 特別支援教育の推進による共生社会の実現を目指す

特別支援学校、特別支援学級、通級による指導、及び通常の学級における学びの充実を図りつつ、それぞれの場での学びの連続性を図り、インクルーシブ教育システムのいっそうの充実を図る。

2 教育・福祉・労働・医療等の関係機関の連携推進による生涯にわたる総合的な支援体制の充実を目指す

インクルーシブな社会における生涯にわたる主体的な生活を積み重ねることを意図して、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」のより効果的な活用を推進し、活用事例等の共有を図る。

3 卒業後の自立や社会参加の実現に向けて子供たちのキャリア発達を支援する視点からの教育の推進を目指す

自立と社会参加を目指し、キャリア・パスポートの効果的な活用を推進し、活用事例等の共有を図る。

4 特別支援教育に関する専門性の高い教職員の育成を目指す

特別支援教育を新たに担当する教員や通常の学級を担当する教員などに資する情報発信及び研修等の充実を図り、特別支援教育の専門性向上や魅力の発信に努める。

5 子供たちが安全・安心で豊かに暮らせる社会を目指す

アフターコロナにおける子供一人ひとりの心と体の健康を増進し、自立と社会参加に必要な力を育成する健康教育やスポーツ教育の充実を図る。

6 特別支援教育の教育課程に関する実践研究の一層の充実を目指す

特別な配慮を必要とする子供たちが生き生きと活躍する、子供主体の学校生活の実現を目指し、各学校種別に共有の価値として、多様な指導の形態における「主体的・対話的で深い学び」の充実を推進し、実践事例等の共有を図る。

以上の大会アピール（北海道大会）は、本大会の成果としての各学校での実践、及び全日本特別支援教育研究連盟の各種事業の実施において、その実現を図るものとする。